



Title	企業博物館とは何か：企業博物館に見られる多機能性の検証から [論文内容及び審査の要旨]
Author(s)	古田, ゆかり
Citation	北海道大学. 博士(文学) 甲第14567号
Issue Date	2021-03-25
Doc URL	<a href="http://hdl.handle.net/2115/81430">http://hdl.handle.net/2115/81430</a>
Rights(URL)	<a href="https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/">https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/</a>
Type	theses (doctoral - abstract and summary of review)
Additional Information	There are other files related to this item in HUSCAP. Check the above URL.
File Information	Yukari_Furuta_review.pdf (審査の要旨)



[Instructions for use](#)

# 学位論文審査の要旨

博士の専攻分野の名称：博士（文学）

氏名：古田 ゆかり

主査 教授 佐々木 亨  
審査委員 副査 准教授 山本 順司  
副査 教授 小杉 康

## 学位論文題名

企業博物館とは何か - 企業博物館に見られる多機能性の検証から

### ・当該研究領域における本論文の研究成果

本論文は、日本における「企業博物館」を研究対象とし、「企業は企業博物館にどのような機能を期待しているのか」という問いから、企業博物館の機能を調査・分析し、企業博物館の本質を、ヒアリング調査とアンケート調査から実証的に明らかにした研究である。結論として、企業博物館はさまざまなステークホルダーを対象とし、複数の機能が重層的に共存するコミュニケーション装置であるとした。そして、企業博物館を従来のように「博物館の一部」としてとらえることや「企業博物館」という呼称を使うことは実態を適切に反映していないとした上で、伝統的な博物館が今日において基本的機能だけでなく、社会からより広い機能も求められていることから、企業博物館の概念が逆に伝統的な博物館を含むという図式が現れ、企業博物館は博物館について改めて考えるモデルとなる可能性があるとした。

本論文の当該研究領域における研究成果は次の3つである。

1 つめは、すべての東証一部上場企業など 2301 社を対象に、大規模なアンケート調査を実施して、企業博物館が持つ機能について検証した点である。先行研究から明らかとなった企業博物館が持つ6つの機能にまず着目し、ヒアリング調査を行い、その6つの機能をさらに14の機能に細分化した。その後、大規模なアンケート調査を実施して、14の機能と企業博物館における展示内容との関係性を統計的に検証した。

2 つめは、ヒアリング調査およびアンケート調査から、自社の社員や取引先などを対象とする非公開施設の存在が判明したことである。アンケート調査結果からは、回答した企業のうち非公開施設を有する企業は27.7%という結果となり、非公開施設の存在が例外的なものではないこともわかった。非公開施設は、これまでの企業博物館研究においては、その存在が記述されていなく、そのため研究対象にもなってこなかった。本研究では、公開施設におけるインターナル・コミュニケーションや企業史料の保存という機能と、非公開施設の機能には連続性が認められることを明らかにした。

3 つめは、研究対象として企業博物館を捉える枠組みを大きく転換したことである。企業博物館という言葉は1980年代に登場したと考えられるが、企業博物館研究の初期段階である1990年代の先行研究では、企業博物館は伝統的な公立博物館に倣い、地域社会の文化を豊かにすることに役立つべきであり、自社のアピールのような発想のものを企業博物館とは呼べないという主張があった。しかし、企業博物館に関する論考が2000年以降徐々に増えるにつれ、地域文化への貢献に関する検討だけではなく、設置主体が民間企業であることの特性に言及する論考が現れた。例えば、自社事業を中心に扱った施設や企業イメージの形成に貢献するといった論考や、自社アーカイブズ、社員やステークホルダーとのコミュニケーションツールとしての役割などに言及する論考が登場した。つまり、企業博物館を博物館法で規定するような伝統的な博物館の一部分であるという考え方から、企業博物館と伝統的な博物館とは機能において交

る部分はあるものの、それぞれ固有の機能も有していると捉えるようになった。

本研究では、実証的な調査結果から両者に関する捉え方をさらに進めた。つまり、伝統的な博物館が今日において「収集・保存、調査・研究、展示、教育・普及」といった基本的機能だけでなく、社会からより広い機能も求められていることから、より多くの機能や博物館とくらべ特異な状況を含む企業博物館の概念が、逆に伝統的な博物館を含むという図式が現れる。資料を集め、編集し、見せる場であり、そこに人が集い、そのことが新たなものや人を引き寄せる場として、企業博物館は博物館について改めて考えるモデルとなる可能性があるとした。企業博物館の本質を問うことこそが、博物館とはなにかを考えることにつながるとした。

#### ・学位授与に関する委員会の所見

口頭試問において、前提となっている「企業が自社の企業博物館に対して期待している機能」だけを分析することで十分なのかという質問があった。また、アンケート調査から判明した企業博物館が持つ14の機能のレベルが一定ではないこと。企業博物館の本質を明らかにしたことで、「企業博物館」という呼称がその実態を表していないことが判明したが、その議論を踏まえて具体的な呼称の検討まで考察を深めてほしかったという指摘もあった。しかし、これらの点に関して申請者はすでに認識しており、今後研究が進むことで解決できるものであり、本論文の成果を損なうものではないと判断した。

以上の審査の結果、審査委員会は全員一致して、本論文の著者である古田ゆかり氏に博士(文学)の学位を授与することが妥当であるとの結論に達した。